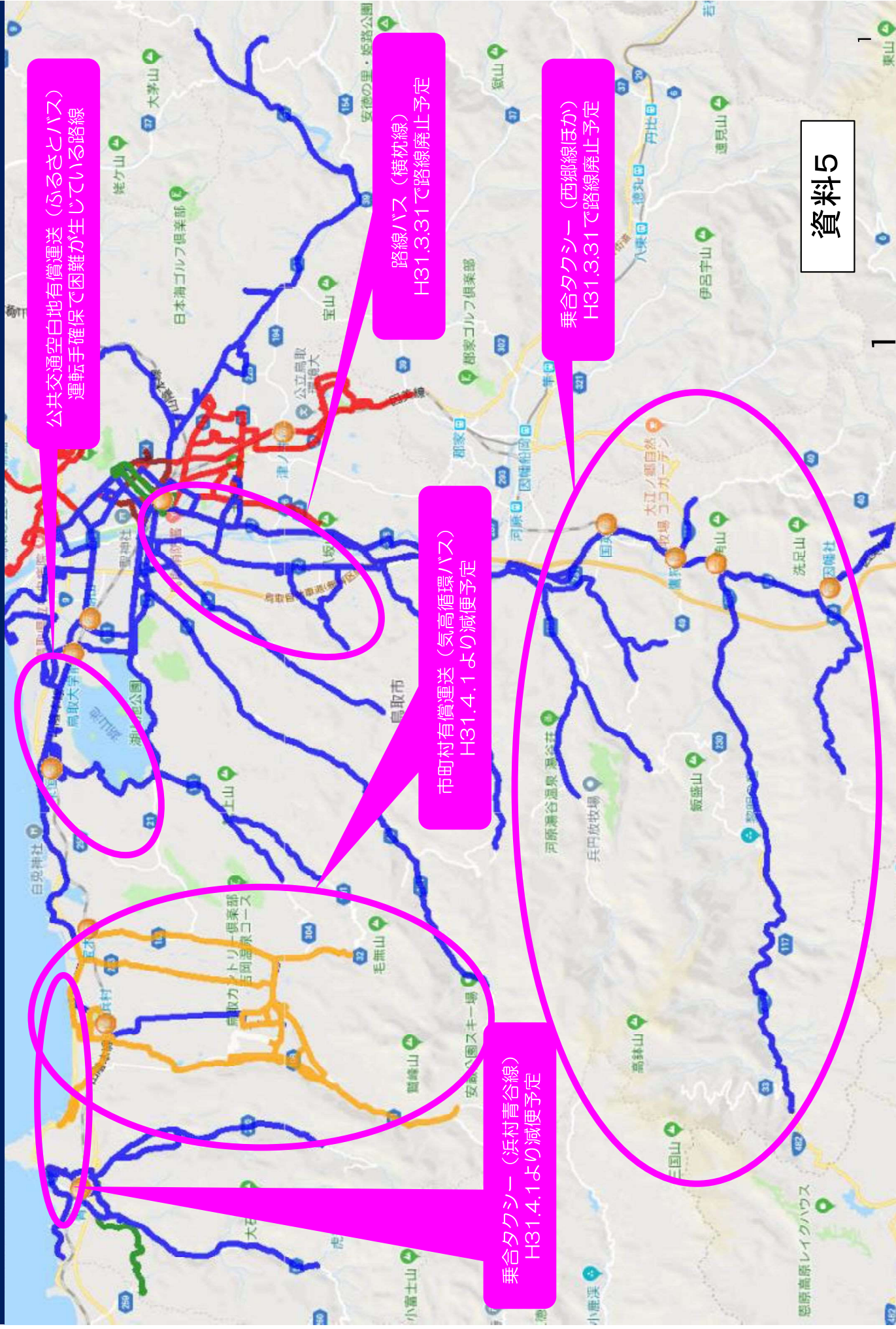
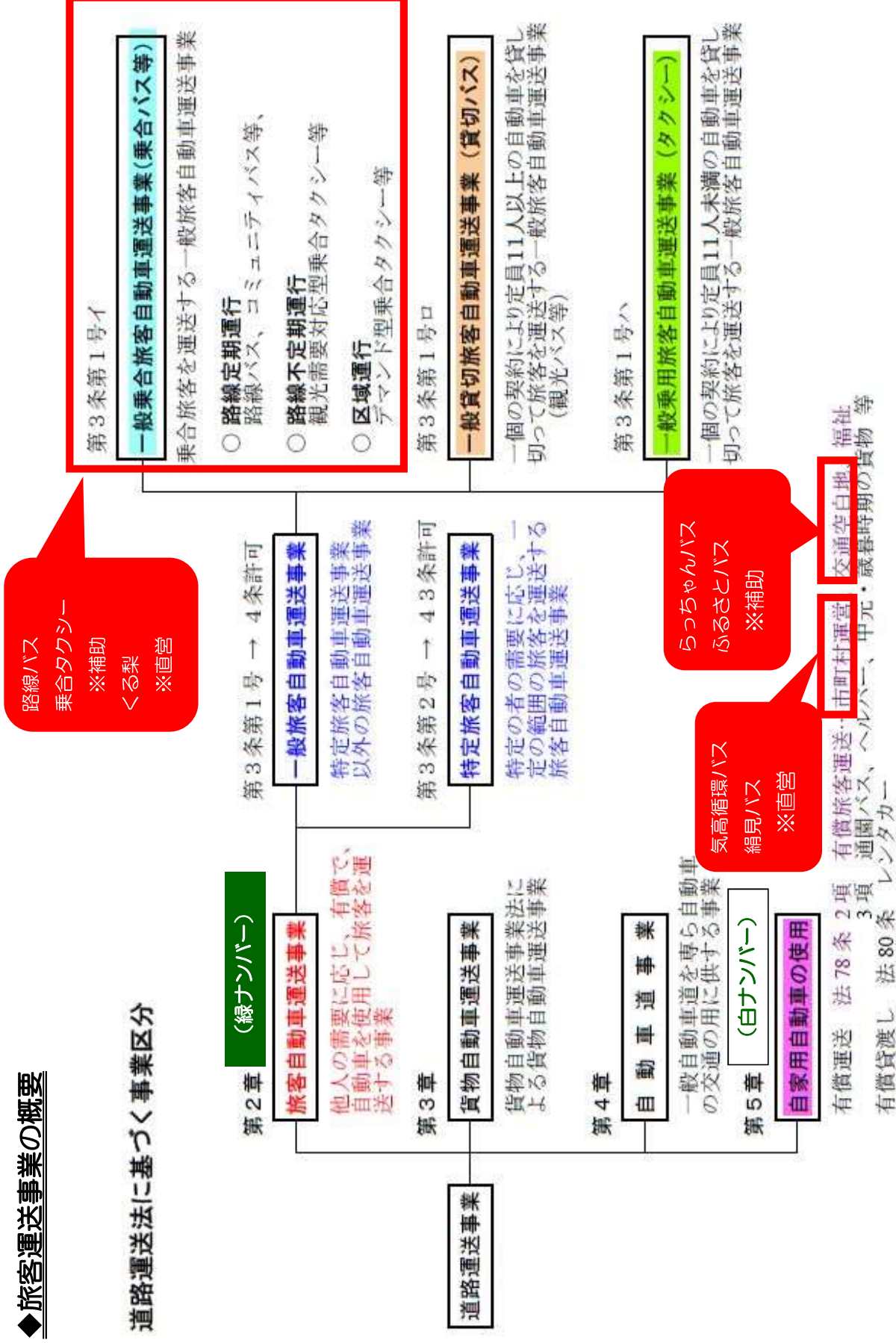


○運転手不足を理由に廃止・縮小等が検討されている路線



◆旅客運送事業の概要

…鳥取市が運行または支援しているもの



琴浦町民の「生活の足」として町内を走る鳥取県中部唯一の町営路線バス（通称・こよらバス）が、来年度から一部廃線や減便の危機に直面している。現行維持を望む町は、運行委託するバス会社などと協議を進めているが、「ドライバー不足を理由に現行での契約更新は難航。町は他業者との契約や路線見直しも思索し、存続の新たな道を探る。」（池田悠平）

琴浦町営バス 廃線危機

こよらバスは、町所有バスによる有償運送のいわゆる「日バス」。2008年度から日ノ丸自動車を受託運営し、運賃は小学生以上で一律100円、高齢者など、他に移動手段のない町民に車宝されている。

委託会社のドライバー不足 「直営」「タクシー」道探る



現行維持が危ぶまれている「こよらバス」 琴浦町八橋

0万円の経費を投じた。と、日ノ丸自動車との契約期間は本年度で満了。同社はドライバー不足から契約の継続に難色を示し、一部撤退も視野に入れているという。以前は路線の一つで、現在は予約型乗り合いタクシー（デマンドタクシー）として形を残す「上中村線」と、遠隔地の児童を運ぶスクールバスを受託する日本交通も同様の理由で撤退を示唆。町は、同社と運行継続にむける考えだが、「ドライバー不足は全国的な問題。全路線維持が最善だが、見直しは避ける。同町竹内の女性（90）は「車の免許証を返納してしまい、バスがなくなると買い物に行くのにも困ってしまう」と心配する。

町は、運送会社などの事業所に運行業務を打診したり、町がドライバーを募集する直営での継続を検討したりと、新たな手段を模索する。仮に廃線になった場合でも、交通空白地域の住民を対象にタクシー運賃の半額を補助する「タクシー利用助成事業制度」を活用する代替案も計画。利用料は100円ではなくなるが、廃線周辺地域を対象地域に定め、利用者の負担を減らす考えだ。

町は、運送会社などの事業所に運行業務を打診したり、町がドライバーを募集する直営での継続を検討したりと、新たな手段を模索する。仮に廃線になった場合でも、交通空白地域の住民を対象にタクシー運賃の半額を補助する「タクシー利用助成事業制度」を活用する代替案も計画。利用料は100円ではなくなるが、廃線周辺地域を対象地域に定め、利用者の負担を減らす考えだ。

淀江巡回バス契約終了

運行業者
更新せず 米子市、事業者公募へ



運行事業者から本年度限りで委託契約を更新しないと申し出があった「どんぐりコロコロ」＝8日、米子市淀江町西線

米子市は8日、市淀江支所で開かれた市淀江地域審議会で、旧淀江町を中心に巡回するバス「どんぐりコロコロ」の運行事業者からドライバー不足のため本年度限りで委託契約を更新しないことを申し出があったことを明らかにした。市は路線を維持するため、車両を購入して新たな運行事業者を公募する考えを示した。

「どんぐりコロコロ」は、路線バスがカバーできない淀江地域の住民の交通手段を確保するため、2001年9月に運行開始。委託運行していた日本交通から今年1月、契約を更新しない旨の打診があり、協議を重ねた結果、10月に正式に申し出があった。

市は審議会で、生活路線を維持するため、12月に事業者を募集し、来年2月までに選定すると説明。大型免許を所有するドライバーの確保が難しいことや、事業者を急いで決定する必要があるため、市が予備車両を含

む2台のマイクロバスかワゴン車を購入する。市は当面、旧行の運行経路や運賃を変更しない方針。都市創造課は「地域住民の生活の足を確保することを第一に考えたい」としている。（田子賢樹）

町営バス運行事業者を募集

日野町

日野町は町営バスを運行している事業者との委託契約が来年3月末で満了するのを受け、新年度から業務を委託する事業者を26日まで募集している。

町営バスは日野町と日南町の一部を対象とし、根雨宿・病院線▽菅福線▽奥渡線▽板井原・真住線―の4路線で運行している。

応募資格は、運行管理者や整備管理者の資格を有する職員を雇用している法人。主な選定基準は、見積額や運行組織体制、サービス水準などで、提出書類とヒアリングで総合的に審査する。

契約期間は来年4月1日から3年間。12日午後1時半から運行業務説明会を開き、来年1月7日（土）に受託候補者を選定。同18日（土）に事業者を決め、契約を締結する。

（岡野耕次）